

コラム第 12 回

医学生と医師になってからのスタンスの違い

春は進級の季節ですね。無事に進級された方、おめでとうございます。今の医学部医学科は私の頃と異なり、学ぶ量が多くて気が抜けなくなっています。学年を1つ上がるハードルが高くなってきました。留年された方も気を落とさずに淡々と目の前の課題をやっていきましょう。

さて、進級したということは医師に近づいたとも言える一方、学生時代が残り少なくなってきたとも言えます。学生生活は残り何年、その間に出来ることは限られており、今のうちにやっておきたいことに優先順位をつけておきましょう。

私の頃は医者になったら夜昼なく働いて遊ぶなんて出来ないから、学生時代に悔いを残さないように遊んでおけ、なんて先輩からよく言われました。でも今は初期研修において夕方には終わらせるように指示されており、研修医生活をそれほど恐れる必要もなくなり、学生時代に駆け込みで無理して遊ぶ必要もないと思います。学生時代にやり残したことは医者になってからでも出来ます。だから、学生時代はむしろ学業優先が望ましいでしょう。

そうは言っても、やはり学生時代でないと出来ないこともあり、その1つは長期の海外旅行でしょう。私は学生時代に、医者になっても学会等でたくさん国内旅行は出来るだろうけど、長期の海外旅行は出来ないだろうと想定し、学生時代の後半には南の島でのスキューバダイビング旅行をたくさんしました。この想定はやっぱり当たっていて、医者になってからは北海道から沖縄まで多数の学会に参加して、ついでに少し観光もしていますが、プライベートな海外旅行は良くて年1回、1週間程度しかできていません。

もう一つ、医学生は必修科目が多いため、どの科目も落とさないという守りの意識が肝心です。一方で、医師は自分の望む科やサブスペシャリティを選ぶことが出来て、得意分野をどんどん伸ばせるから攻めの意識でいけると思います。学生時代に運動部にのめりこんで勉強がおろそかだった人が医師になってから卓越した臨床医になる例が多いのも、そういう面があると思います。また、学位や専門医をとるのに失敗して1年や2年遅れてもキャリアにはほとんど影響なく、一方で論文業績などの攻めはいつまでも評価されます。

ただ、本学の進級要件の、落とした科目があっても GPA が 1.5 以上なら仮進級して、落とした科目は半年以内の特別指導で追加合格できればそのまま進級を継続できるというシステムは素晴らしいと思います。守りの意識だけだと全科目ぎりぎりを受かればいやとな

りがちですが、得意科目を伸ばせばそれによって GPA が上がり留年を免れるというのは、学生時代から攻めの意識が評価されているとも言えます。

もう一つ、学生時代は「明日、学校来るよ」と言って、翌日に寝坊して来なかったりしても笑い話で済まされますが、医師とか社会人になったら、いついつに何するよと言ったら約束になるので、約束を破ったら嘘つきとなり信用を失います。学生時代から少しその辺を意識しておきましょう。大言壮語が許されるのは、試合前のプロボクサーなど一部の人間だけで、一般社会では出来るかどうか分からないことを出来るように言うのは控えましょう（自戒をこめて）。

あと、上記で「学生時代は守り、医師になったら攻め」と言いましたが、それは試験や進路選びのようなイベントに関してであり、日常生活においては、「学生時代は攻めとかメリハリ、医師になったら守りとか自己管理」という面があります。学生時代は試験前に100%の力で勉強し、試験が終わったらパーッと飲みに行ったり徹夜でゲームをやったりして頭を空っぽにするなんてメリハリがありました。が、医師になったら毎日 70~80%の力を出し続けることが大事だと思います。医師の仕事の多くは地味なルーティンワークで100%まで力を発揮する瞬間は滅多にないのですが、50%未満の力だとミスしてしまう可能性があり、それが命取りになることがあるからです。